

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	障害児保育研究				
担当者氏名	岡田 強志				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 専門応用-2 豊かな人間性の醸成 ◎ 専門応用-4 発達の深い理解 ○ 専門応用-5 指導・保育の専門性				

《授業の概要》

本科目は、「障害児保育Ⅰ・Ⅱ」「子ども家庭福祉」「社会福祉」などで学んできた障害児やその家族に関する知識や支援方法を統合し、実践的な学びへと展開していきます。テキストや動画を活用した学びを中心としつつ、実践レポートや論文を読むことも取り入れます。教育や福祉の現場で求められる視点、自分の考えを言語化すること、多様な意見を受け入れること、このような実践力を養成することを目指します。

《授業の到達目標》

・障害特性を生かした保育の進め方や共に育つ保育について、自分の考えを説明することができる。 ・障害特性に適した保育や支援の進め方を計画することができる。 ・仲間と共に育つ保育の進め方を計画することができる。 ・児童およびその家庭を支援するために必要な制度と社会資源に関する情報を収集することができる。 ・適切なアセスメントを基に個別支援計画を作成することができる。

《成績評価の方法》

授業内提出課題：40%  
課題レポート：60%

《テキスト》

市川奈緒子・岡本仁美 編著  
「発達に気になる子どもの療育・発達支援入門」金子書房、2018年

《参考図書》

尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子 編著  
「よくわかる障害児保育 第2版」ミネルヴァ書房、2018年  
日本相談支援専門員協会 編集  
「障害のある子の支援計画作成事例集」

《授業時間外学習》

事前学習として、テキストや事前配布資料の指定範囲を読み込んで、授業内で行う「事前学習の復習」に備えてください。また、新聞やテレビ、YouTubeなどから、障害児・者に関する話題、児童福祉政策の動向などを身近に感じ取るよう努めてください。授業終了後は授業内容を振り返り、自身の関心に合わせた学びが深められるよう期待しています。

《備考（教員経験の有無）》

保育士、社会福祉士  
これまでに児童養護施設および乳児院の児童指導員、スクールソーシャルワーカーとしての実務経験があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	ガイダンスー「障害」を学ぶことを理解する	本科目の授業内容、進め方、成績評価の方法について説明します。今、自身にある「障害像」を確認し、これからの学びのマイルストーンを設定します。
2	療育・発達支援とは何か	テキストP1～P9 「障害」と「療育・発達支援」の基本的概念を学びます。
3	発達障害を理解する① 知的障害、LD	テキストP10～P13 知的障害、LDの症状がある子どもの障害特性、援助方法を学びます。
4	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由を理解する	テキストP18～P25 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由の症状がある子どもの障害特性、援助方法を学びます。
5	発達障害を理解する② ADHD、ASD	テキストP14～P17 ADHD、ASDの症状がある子どもの障害特性、援助方法を学びます。
6	愛着障害を理解する	事前学習資料を配布します。 愛着障害とはなにか、その基本的概念を学びます。
7	医療的ケア児を知る	事前学習資料を配布します。 医療的ケア児とはどのような子どもなのか、医療的ケア児をめぐる政策について学びます。
8	アセスメントの基本とチームアプローチ	テキストP27～P39 障害児やその家族を支援する基盤となるアセスメントの手法を学びます。
9	発達支援に関わる職種とその役割	テキストP40～P71 他機関・多職種連携の実際と専門職のはたらきかけについて学びます。
10	さまざまな支援技法①	テキストP82～P97 TEACCHプログラム、感覚統合理論などの支援技法について学びます。
11	さまざまな支援技法②	テキストP97～P119 ソーシャルスキルトレーニング、コグトレなどの支援技法について学びます。
12	アセスメントから個別の児童発達支援計画	テキストP72～P81 事例を活用して、子どもとその家族のアセスメントを行い、個別支援計画を作成します。
13	療育・発達支援における家族支援	テキストP142～P158 事例を活用して、家族支援のあり方とその方法を考えます。
14	療育・発達支援機関における就学支援	テキストP160～P165 「障害児保育」から「障害児教育」へ 支援の連続性について考えます。
15	他機関連携と地域支援	テキストP166～P176 事例を活用してして、地域連携の実際と家族支援について学びます。